|  |  |
| --- | --- |
| 現代文2018年度  第三回　　「物語について、自分の読みと他の人の読みを出し合ってみよう②」 | 作成者：上山・濱部  実施日：2018.10.20  　　　　　　　　(土曜日) |

**基本情報**

|  |  |
| --- | --- |
| 【単元の目的】  生徒が、  ①小説に対して様々な解釈を認め、  ②自分なりの読む楽しさに納得感を持つ　　ようになる。  【今回の授業のねらい】  ・同じ小説を読んだ人たちの様々な解釈に触れ、人によって違うものが出てくるのだということを知る。(物語のコンテンツに関して)  ☆他の人の読みにも興味を持ち、理解を示す。  ☆全員を納得させるような読みを探さなくていいんだということに気付き、無理に正解を求めない、という行為を受け入れる。  対象者（生徒・クラスの現状予想。テーマへの関心など。）  ＊以下は、単元の目的や今回の授業で取り組むことの視点を踏まえて書きましょう！  生徒の現状  ・本文を読んで、内容を読み取る力はもともとついている。(先生より)  ・山椒魚の全体の読解は終わっている。  クラスの雰囲気  ・普段、先生からの問いかけ、呼びかけへの反応は良い。  テーマへの関心  前回では、物語の前半部分に関して討論を行った結果、自分が読み取った「本文には書かれていないこと」と、他の人が読み取ったそれが、一緒ではないこともある、ということに触れた。しかし、まだ客観的な読みから”自分だけの”解釈に落とし込むことに関して慣れない・もしくは抵抗がある生徒もいるかもしれない。4,5回に先駆けて、「他の人が感じ取ったことも認めつつ、自分は自分で納得した読み方・楽しみ方で良いのだ」という気持ちを少し体験してもらえるような機会にしたい。 | 【今回の目標】　＊今回の授業のねらいを達成するには、生徒が何を完了すれば良いのか？  (1)物語の後半の内容について他の人と解釈を述べ合うことを通して、様々な読みに触れる。  (2)前時を踏まえ、「物語を読む」ことへの印象を改めて捉え直す。  評価の観点と方法（目標と対応するように）  ＊完了度合いを何で測るのか？何をもって完了と見なすか？  (1)ワーク③の2つの枠を埋めることができる。  (2)振り返りを、「物語の読み方」についてを踏まえて書くことができる。  準備物など  ・ワークシート  ・振り返りシート(ワークシートの最後に机を動かす)  ・PC(必要であれば)  その他  ＜備考＞  第2~3回は、『山椒魚』の物語を3つの場面に大きく分けて取り扱う。  (第2回)  **【場面1:意地っ張りで孤独から目を背けているとき**】(第一回のワークシート該当箇所→1,2)  **【場面2:自分の不甲斐なさに気付き、絶望するとき】(**第一回ワークシート該当箇所→3,4)  (第3回)  **【場面3:蛙の存在によって、久しぶりに話す相手ができたとき】**(第一回ワークシート該当箇所→5,6) |

**タイムライン（計40/45分）**。＊曜日によって持てる時間が変わるので注意！　(月金土:45分　木:40分)

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 構成 | 時間（分） | 活動内容 | 各活動のねらい | 予想される生徒の様子 | 大学生の対応 | 備考 |
| 導入 | 4分 | ・目的を確認  　〇色んな人の解釈に触れ  　〇”自分なりに”読む。  ・新しい大学生の簡単な挨拶  ・今回やることについて | ・今回やることを意識しつつ、その活動に対して意欲的になる。 |  | ・初めて現場に入った大学生は、前に出て挨拶。自己紹介シートに書いたことを踏まえても〇。簡単に。 |  |
| 班替え | 3分 | 班のメンバーが前回からまた少し変わると良い。(全員ごちゃまぜにする必要はない。)  ＊短時間で、班の人数が固定できる動かし方で。 | 授業全体の目標  「**様々な解釈**を」に該当。  メンバーが変わることで、物語に切り込む視点が新しくなるかもしれないという期待も込めて。 | 席を移動。 | ここよりもワークに時間を割きたいので、混乱している生徒がいたらすぐに声をかけて移動させる。席につかせる。 | **＊**班の数は  　6人×4つ  　5人×2つ　　計6つ |
| ワーク③  (前回に続き) | 15　分 | 討論テーマ③  **蛙の「今でもべつにお前のことを怒ってはいないんだ。」の言葉に込められているのはどんな気持ちだろうか。**(p.126 L8)  個人で考える時間(4分)  語り合い(10分) | 個人の時間:  本文に書かれていない”蛙の気持ち”に思考を巡らせる。  語り合いの時間:  この問いは前時に比べて難しいので、少し長めに取っている。  その分だけ討論が活発になってほしい。 | 個人の時間:  前時に2回、同じように考える練習をしているので、手が止まる生徒はほぼいないと予想している。ただ、テーマの難易度が高いので時間はかかるかもしれない。  語り合いの時間:  蛙のこの発言に関しては、  ①本当は怒っているのではないか?  ②本当は蛙も友達がほしかったから、閉じ込められたことが全然頭に来なかったのではないか?  ③自分の命が尽きるのももう時間の問題だから、怒りとかの感情がもうどうでもよくなっていて、悟ってしまったのではないか?  など様々な読みが出てくるのではないかと予想している。  それぞれに関して互いに質問し合ったり、納得したり、共感できたりする場が生まれると良い。 | 個人の時間:  基本的に机間巡視。早く書き終わっている生徒には、積極的に話しかけたり質問して掘り下げるなどしながら、自信をつけてあげる。  語り合いの時間:  生徒たちが討論に慣れてきていたら、大学生はあまり介入しすぎずに様子を見る。  生徒の発言の中から「おもしろい！」と思ったものがあれば一緒に加わって話すのも時々やると生徒にとって刺激になって楽しいかもしれない。 | 語り合いの時間は、自分以外の人が話していることに対して積極的に相槌をうったり、自分をの考え方の違いについてまとめたりして良いという風な声かけを大学生全体でしていきたい。 |
| 共有 | 8分 | 各班でどのような解釈が出たのかをクラスで共有する。 | 「様々な解釈」に触れるところから  →「自分なりの読み」に確信を持つことへのステップ  これまでは班の中で自分以外の5人(4人)の意見を聞くだけだったが、ワーク③の蛙の発言は捉え方も多種多様である可能性が高いので、各班で話題に出たことをクラスに共有してみる。 | 聞いている生徒には、「様々な解釈に触れる」「他の人の読みにも興味を持ち、理解を示す」ができる姿勢になっていてほしい。 | 生徒たちが発表者のことが見えるように、視界を遮らない位置にいる。 |  |
| 振り返り | 5分 | 振り返りの欄に記入。 | ・今回の討論を経て、最終的に自分はどういう答えに行きついたのか  ・「物語を読むこと」への印象について  の2点について。 | 個人で記入。 | 机間巡視 |  |
| 今日のまとめ  次回予告 | 5分 | (1)今日伝えたかったこと、感じてほしかったことのまとめを行う。  (2)次回について簡単に予告。 | (1)・複数人で出し合ってみると様々な意見が出てくるということを”楽しむ”領域に入ってほしかった。  ・物語を読むときに、誰もが頷くようないかにも”正解な読み”を探さない、という読み方があることに気付き、自分なりに出した解釈の仕方に納得できる感覚。  それを通して物語を読むのが「楽しい！」と思ってもらいたい。  (2)次回以降はまた違った視点で、『山椒魚』を見てみるよ。 |  |  |  |

◎討論テーマ候補

**【場面3:蛙の存在によって、久しぶりに話す相手ができたとき】**(第一回ワークシート該当箇所→5,6)

・山椒魚は、どうして紛れ込んできた蛙を閉じ込めてやろうという気になったのだろう。(p.123 L7)

・山椒魚は、蛙を自分と同じ状態に置いたことの、どこに「痛快」さを覚えたのだろう。(p.123 L13)

・山椒魚は、どんな返答を期待して蛙に「お前は今どういうことを考えているようなのだろうか？」と尋ねたのだろうか。(p.126 L6)

・蛙の「今でもべつにお前のことを怒ってはいないんだ。」の言葉に込められているのはどんな気持ちだろう。(p.126 L8)

・山椒魚にとって、蛙はどんな存在だったのだろうか。

・蛙と出会って、山椒魚は変わったのだろうか。